

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討 — 幼児学校指導者との比較を通して —

A Study on the Curriculum of Fröbelism-Kindergarten-Teacher Preparation
— By the Comparison with Infantschool-Teacher —

豊 田 和 子
Kazuko Toyoda

(要約)

フレーベル主義幼稚園教師の養成教育カリキュラムの実態とその特徴を探究した。論展開として当時の幼児学校の特徴とそこの指導者に要求された資質や力量と比較するという手法をとり、考察の結果、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのフレーベル主義幼稚園教師養成にカリキュラムは、教育理論や心理学、幼稚園の遊びなどを重視した内容であったことが解明できた。

(キーワード)

フレーベル主義幼稚園教師、カリキュラム、幼児学校指導者

はじめに

本稿の目的は、1840年代～1900年代にかけてのフレーベル主義の幼稚園教師養成のカリキュラムの実際とその特徴を明らかにすることである。幼稚園を幼児期の重要な教育施設として構想したフレーベルは、そこで働く幼稚園教師に高い専門性を付与する養成教育を自ら手掛け、養成ゼミナールを開催したり講演旅行に出向いたりして養成実践を行った。そして彼の没後は、多くの継承者がドイツ各地でフレーベル主義の幼稚園教師養成教育場や養成学校を設立して、専門度の高い幼稚園教師の養成を志向した。

さて、フレーベルに関する先行研究においてはこの養成問題やカリキュラムに関して部分的に取り上げられてはいる¹が、このテーマで歴史の変遷を一貫して明らかにしたものが少ない。そこで、本稿では、フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの解明という課題意識をもって、その変遷を辿ってみたい。研究アプローチとしては、フレーベルの幼稚園教師養成とそのカリキュラムの特徴をより鮮明に浮かび上がらせるために、同時代に展開されていた幼児学校の特徴やそこで要求された指導者の資質や養成の実際を比較対象として取り上げる。この問題意識から、本稿前半では当時の幼児学校とそこでの指導者養成の特徴を述べ、後半部分でフレーベル主義幼稚園の教師養成カリキュラムの問題を扱う。

1. フレーベル時代の代表的な幼児施設とその保育者養成について

1800年代のフレーベル以外の人の幼児保育者養成の実際を比較対象として検討する。

(1) 幼児学校や託児所の設立

1830年代のドイツでは、産業革命の開始に伴う民衆の生活の貧窮化とそこから生じる育児放棄などの問題から、貧民幼児に対する保護と教育の政策が緊要な課題となってくる。例えば、1827年6月24日、プロイセン文部省は次のような全プロイセン王国政庁宛の回状を発し、その中で「幼児学校の急速な設

立」に努力を払うように説いている。

当文部省は、かかる幼児学校（ウィルダースピンの幼児学校のこと＝引用者）は貧民児童の粗野化の弊害の源を根絶し、いかなる場合にも、放任された子どもたちの道德化のためにいくつかの地域に設立された慈善施設がその性質上成しうるよりもさらに確かにかつ有効に働くので、その地の行政区においてもこのような幼児学校の急速な設立に考慮を払うよう、王国政庁に大いに勧めるものである。²

この回状に従って、メルセブルク政庁やケーニヒスベルク政庁、バイエルン、ザクセン、ヴェルテンベルクなど諸邦では、自治体が幼児教育施設の設立を推進した。その後、プロイセンでは、貧民階級を対象とする幼児福祉施設、つまり託児所に対する保護政策がとられた。「幼児学校 Kleinkinderschule」に代わって「託児所 Kinderbewahranstalten」は、文字通り、「保護施設 Bewahrungsanstalten」であり、ウィルダースピンの幼児学校の知的教育よりも、貧民児童の保護と治安維持の立場から宗教的・道徳的訓育が重視された。フレーベルの幼稚園が創設される直前のことである。

（2） 代表的な3人

幼児学校や託児所の設立が急務となった社会的情勢にあつて、フレーベルと同時代にドイツに幼児教育・児童福祉施設を設立し、併せてその施設の指導者（＝保育者、教育者）の養成を試みた人物として、著名な3人を挙げるができる。それは、①ヴィルト（Johann Georg Wirth, 1807-1851）、②フリットナー（Theodor Fliedner, 1800-1864）、③フェルジング（Jurius Fölsing, 1818-1882）である。次に、フレーベルの幼稚園思想と対比するためこの3人の構想について若干敷衍し説明することとする。ヴィルトとフリットナーについては、既に梅根悟が『世界教育史体系21 幼児教育史I』（講談社、1974年刊）でかなり詳細に紹介しているので、それを参考にしながら概述する。ただし梅根論文は、大半が当時東ドイツの幼児教育史家クレッカー（M. Kreckler）の論文「Die Anfänge einer gesellschaftlichen Vorschulerziehung für die Kinder der arbeitenden Klassen in Deutschland, 1966」からの大幅な参考紹介であり、原著から直接引用・翻訳することとする。フェルジングについてはわが国の幼児教育史研究ではこれまで皆目紹介されていない。

①ヴィルトの託児所とその保育者養成について

貧民階級を対象とする幼児教育政策に力が注がれ始めるのは、ドイツで本格的な産業革命が開始されることに伴って民衆の生活が困窮化してきたことを背景に、各地で市民運動が展開されるが、とりわけ活発だったのは、民衆運動の頂点をなした1832年5月27日のハンバッハ祭を経験したバイエルン地方であった。バイエルンはこの市民・民衆の蜂起を契機に、より積極的に各地方自治体に託児所の設立を要請した。このことから、アウグスブルクを舞台としたヴィルトの託児所運動が展開されることになる。同年7月31日にオーバードナウ郡政庁はアウグスブルク市参事会に対して託児所の重要性を説き、このことから当時福音派の貧民児童の家の教師兼少年監督官だったヴィルトが、この託児所の教師として任用されたのである。

ヴィルトは、2ヶ月間をかけてニュルンベルクやアンスバッハ、フランクフルト・a.M. やダルムシュ

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

タット等の西南ドイツ諸都市を訪問して幼児教育施設を視察し、後に「託児所に関するまた託児所からの報告、ならびに幼児学校及び放任された児童のための救済施設に関する報告」(1840)を公刊した。アウグスブルク市は1834年6月26日託児所開設に関する公告を出し、ヴィルトは「如何に熱心な教師の活動によっても児童の粗野と善への無感覚のために挫折せざるを得ないような、知的にも道徳的にもそしてしばしば身体的にもぼろぼろになった児童を毎年多数受け入れるという悲しむべき状況」³が民衆学校の質的低下を招いているとし、この状況改善のためには託児所の設立が必要であると陳述している。

この著の中でヴィルトは「託児所と接合した子守り女のための準備学校」を提案したのであるが、まもなく市参事会の認可を受けて設立の実現に至った。ヴィルトの養成構想は、「自発的に行動する、勤勉な、器用な、役に立つ子守り女」を1年課程で養成しようとするもので、教授陣はヴィルト自身と医師経験の女性だった。その教育内容は、・子どもの心身の諸要求、それを満たすための手段、・病気と子どもの世話、・乳児の扱い方、・子どもの遊ばせ方、・聖書の箴言、・唱歌などの教授と託児所での実際的訓練によって構成されていた。しかし、この構想は託児所の保育者養成ではなくて、あくまでも「家庭の子守り女」の養成案であった。託児所の保育者養成に関しては管見の限り資料がこれ以上見つかからないが、この構想が、保育者養成の第一歩を創りだす基盤として意義を持ったと推測できる。

なお、託児所のカリキュラムにまで触れると本稿の意図から逸れるので、その要点だけを述べるとすれば、宗教教授と知的練習としての課業、手作業及び遊びから構成されている⁴。ヴィルトによれば、託児所は「本来の学校を先取りしようとすることはまったく私の意図ではない」「託児所は、思慮ある園丁がか弱い植物にその最初の出現の際に保護的な手を差し伸べるように、教育も守護神のごとく、子どもに既に彼の精神的諸力が活動する時点から支援の手を差し伸べるようにすべきである」⁵と言う。しかし、練習や労働が正規の主授業であって、遊びは休憩時間的な、「勤勉の報酬」としてしかみなされていない点に、フレーベルの考えとの大きな違いがある。

②フリットナーの幼児学校とその保育者の養成について

カイザースヴェルトの新教派牧師であったフリットナーは、1823-24年に献金募集のためにオランダとイギリスに旅行し、その際にウィルダースピンの幼児学校など慈善事業を視察したことが契機となって、1835年にデュッセルドルフ政庁が幼児学校を設立することに協力し、教区のカイザースヴェルトにも貧民児童を対象とした「編物学校 Strickschule」を設立した。翌年には、この「編物学校」を「幼児学校」に改編し、貧しい工場労働者の子弟（2歳～就学前児童）約40人を収容した。この学校の教師はH.フリッケンハウス女史で、フリットナーの最初の幼児学校の教師となる。同時に1836年に、フリットナーはカイザースヴェルトに幼児学校女教師のためのゼミナールを付設し、1～4ヶ月期間で養成し、新設された幼児学校の教師として送り出した。1836-42年の間にフリットナーは、ラインラント＝ヴェストファーレンに27の幼児学校を設立したが、そこで雇われた教師の大半はカイザースヴェルトのゼミナール出身者だった。このゼミナールの様子が1843年の「一般学校新聞」に次のように紹介されている。

彼女ら（幼児学校教師志願者＝引用者）のために、幼児学校に接続して専用の広い家が設けられた。彼女らは看護尼の監督の下で住み込み、この看護尼によって徹底的に知識や家事労働の教育を受けた。看護尼が行う夜の聖書講読にも参加するが、一日のそのほかの時間は家または幼児

学校で過ごす。養成課程は最低3ヶ月と定められているが、多くの場合4ヶ月である。(中略) 唱歌、算数、博物、直観科、ドイツ語作文の授業が行われ、若干の地理が教えられている。1841-42年には養成ゼミナールに47人の生徒がいた。修了後、多くの者は幼児学校の教師として活躍している。⁶

フリットナーによるこのような幼児学校付設のゼミナールが各地にできて、この看護尼養成所で教育を受けて幼児学校教師になった女性は、1851年までに約4000人に達した。

ところで、このフリットナーの幼児学校の目的は、働く母親の子どもたちを身体的及び道徳的な害悪から守り、「神への畏敬へと導くこと」⁷であった。彼によると、この学校の目的は、知的教育と身体的教育と労働教育を通して達成されると言う。知的教育は、単調な読み・書き・算の訓練、聖詩の暗誦などが主流であり、労働教育は編物、選毛、藁細工、組紐、機織などによって行われた。さらに身体訓練として、室内で一定の号令のもとに行われる兵式運動が取り入れられた。その他に特徴的なことは一日4回のお祈りと唱歌(キリスト教関係の宗教歌や俗謡)があった。このように、フリットナーがめざした幼児学校は、貧民児童の宗教的訓化や道徳的教化と体力強化にあったことは明らかである。

このような意図から、フリットナーは、幼児学校の宗教的・道徳的教化を促進するために、幼児学校女教師にも宗教的・道徳的教育に力点をおき、「神の面前で毎日、或いは最低毎週、自己の職務を自分と子どもたちのために果たしたかどうかについて、弁明したいと望む幼児学校女教師のための自己試験問題」⁸を著したほどである。このことから、養成教育においても教会の要求に沿った形での宗教教育を中心としたカリキュラムであったことは推察できる。少なくとも、幼児の遊びや自発的・活発な活動は副次的事項に過ぎなかったことは明らかであろう。この点で、フレーベルの思想と大きな相違がある。

③フェルジングの幼児学校とその保育者養成について

フェルジングはオーバーヘッセンの出身でフライブルクの学校教師養成所に通い、その後1841年にダルムシュタットで教師となる。この頃8年前からこの地には労働者の子弟のための幼児学校があり、彼はそれに非常に強い関心を抱いていた。彼は自分で41の幼児学校を視察してまわりその活動を分析した。その結果、幼児学校が単に貧民の子弟のみならず、裕福な階層の子弟のためにも有益であるとの印象を持った。このため彼は、1843年にダルムシュタットに上層階級家庭の児童のための幼児学校を設立した。ただし彼の回想によると開設当初はたった一人の男の子が入学したにすぎない、と言うのは、「この種の施設は余りにも新しすぎて誰にも知られていなかったから」⁹というのがその理由だった。だが、知られるようになると児童の入学者数も増えて、1844年には大きなホールを増築せねばならないほどになった。ただしフェルジングの構想によれば、プロレタリアートの子弟向けの幼児学校と裕福な家庭の子弟向けの幼児学校とを分離させて、それぞれが別個の課題を担っているということであり、両者を同一施設で教育するという発想ではない。この点がフレーベルの構想とは決定的に異なる。しかし同時に、フェルジングは幼児のためのあらゆる施設が関係しあうことを支持し、一方ではフレーベル信奉者と他方では教会系の幼児学校とも協働することに努力していたことも彼の論文や書簡から伺える¹⁰。1844年にはフレーベルが半年間フェルジングのもとを訪問し幼児学校を視察している。また、同様にフレーベルの協力者であるミッデンドルフも2回ばかり客として訪問している。またダルムシュタットの幼児学校に

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

はフレーベルの女弟子第1号のイダ・ゼーレ・フォークラー (Ida-Seele Vogeler, 1825-1901) が教師として勤務していたことも知られている。

さて、フェルジングの幼児学校女教師の養成構想はどのようなものであったのだろうか。フェルジングは幼児学校に女性教師 (Erzieherinnen) のための養成場を接合させ、養成期間は1年とした。1862年には年配の幼児学校女性教師の支援のために夜間クラスを設置した。彼の求めた幼児学校の教師の資質や力量はどのようなものだったのか。まず年齢的には20歳～40歳の女性で、健康的、明朗、明るい表情であること、美声、記憶力が良いこと、頭脳明晰、そして神と子どもへの愛の感情の持ち主であることを挙げている。彼は、幼児学校での実践的活動と密接に結びついた基本的な養成を要求した。とりわけ、心理学の知識が要求され、それは教育者が子どもたちに「明るい黄金の朝」を作り出し、両親に家庭生活の風習やあり方と子どもの教育を向上させるために働きかけるのに必要な知識である。また、幼児学校の教師は喜びと成功をもって幼な子たちに働きかけることができるためには本当に有能でなくてはならない、なぜなら子どもは単にお祈りをするだけでなく、思考も行い、活動的で、自分の生活を喜ぶことができなければならないからだ、と言う。

その上、彼は自治体が学校の最終学年の少女たちに幼児学校で一種の実習を導入することを提案している。それは、母として、娘として、或いは教育者としての準備教育になるからである。さらにフェルジングはすべての母親と18歳以上の少女が加入する教育協会を各地に設立することも提案している。その必要性は、教師や牧師の指導の下で子育てや教育問題に関する定期的な助言を受けるべきだと考えたのである。

以上が1830年代から40年代にかけてのドイツでの幼児学校と託児所ならびにそこでの保育者養成のあらましである。ここから結論付けられることは、当時の産業革命期の社会情勢が幼い子どもの保護と教育を必要としていたこと、それを実現するためには子どもたちを保護し教育する保育者の養成が不可欠な課題であったこと、である。こうした社会的必然性ととも、アウグスブルクを拠点として託児所運動を展開したヴィルトと、デュッセルドルフ近郊を舞台として幼児学校運動を展開したフリットナーと、ドイツ南部ダルムシュタットで幼児学校運動を展開したフェルジングには、それぞれ共通点と相違点がある。

3者の共通点は、いずれも貧民の子弟を対象として保育し、身体的・道徳的教育の実現をめざした点であり、このために必要な人材を自身の付施設で養成したという事実である。そこには、多くの女性たちが参与している。養成問題に関する相違点は、ヴィルトの場合には「家庭を補助する子守り女」の育成を主眼としていたこと、この延長線上に施設での保育者養成を構想していた。フリットナーの場合には、きわめて慈善的・福祉的観点から「看護尼養成所」において病人看護尼と並んで幼児を対象とする教師を養成しようとするもので、宗教色の強い人材育成をめざした。また、フェルジングの場合は、彼が学校教師だったという経歴もあつてか、前2者の中間的構想であつたと指摘できる。彼は、一方では貧民児童の救済的な意味合いでの幼児学校をめざし、他方では裕福な家庭の子弟を学校教育へ準備するための幼児学校をめざすという、いわば階層的複線化を構想していた。後者には自主性の発達をめざ

し将来の国家や経済界の指導的な活動への準備教育をしようとした。このため、幼児学校の教師に要求される資質や力量はむしろ後者に力点をおいた教育の実現へと結びついていたと推論できる。

2. フレーベルの幼稚園構想の特色

フレーベルが晩年になって「幼稚園 Kindergarten」を構想しそこで探究した教育論は、彼の生涯の教育活動ならびに思想の結晶であり、簡単に述べられる内容ではない。この節では、彼の幼稚園教師養成構想を明確にするという目的範囲に留めて、前節で扱った3人の幼児施設並びに指導者養成と比較する意味で幼稚園教育について要点だけを述べる。

(1) 1829年2月18日付 バーロップ宛の書簡より

「わたしはこの施設に、類似の施設がこれまで呼ばれてきた名称、すなわち幼児学校という名称をつけません。というのは、それは学校ではあるべきではないからです。子どもたちはそこでまだ学校教育を施されるべきではなくて、自由に発達してゆくべきであるからです。…わたしは有産階級の子どもたちをえらびます。それは事業を可能にするためです」¹¹

ここでは、フレーベルは2つの点で幼児学校との違いを強調している。つまり、①この施設は学校ではないこと、②有産階級の子弟を対象とすること、である。

(2) 1839年3月19日「就学年齢前の子どもの教育と幼児学校教員の養成」について

この論文の正式名は「就学年齢前の子どもたちの陶冶および上述の年齢における教育者ならびに保育者の養成施設の実施、とくに幼児学校教員の養成について」¹² であるが、フレーベルの意図について岩崎氏は次のように解釈をしている。

就学年齢前の子どもたちの教育がすべての後の教育の土台となる重要なものであること、したがって「就学年齢前の子どもたちの精神的ならびに肉体的素質、さらにこれら両者の調和的な形成をひとしくじっとみつめる保育」の大切さを説き、それであるのに「現在の文化状況および生活状況の全状態下では、親たちは自分の子どもたちを有効に作業させる時間も機会もない」有様であると語り、だから「あらゆる身分と境遇のための児童の養護施設《Pflegeanstalten der Kindheit für alle Stände und Verhältnisse》」が必要であると主張している。そして、この施設の設立とその養護遂行を可能にするのは、一にかかって幼児教育者を養成することである¹³、との認識に立っていた。

(3) 1840年6月28日の「一般ドイツ幼稚園 Der Allgemeine Deutsche Kindergarten」の創設。

ブランケンブルクに世界で最初の幼稚園を設立したとき、フレーベルはこの施設についてこう著している。

児童保育のための模範施設、男女の児童指導者のための実習施設、適当な遊びと遊び方を普及せんとする施設、最後に、かかる精神において活動しているすべての親たち、母親たち、教育者

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

たち、とくに形成されつつある幼稚園がその施設から発行される雑誌をつうじてそれと生き生きとした関連にたちうる施設。¹⁴

このようにフレーベルが構想した幼稚園は、母親の育児支援施設の役割、幼児保育・作業施設の役割、保育者養成施設の役割を担った「全体的目的」をもった総合施設であった。

(4) フレーベル幼稚園の保育内容の重点

ここでは、フレーベルの構想した幼稚園の保育内容の重点のみを簡単に列挙する。

- ①庭……………栽培活動の教育的意義を実現するのに不可欠なものだった。
- ②遊びと作業……………フレーベル独自の恩物体系を開発した。
- ③共同性の強調……………運動遊び、庭での共同栽培活動、共同の恩物遊びなど子ども同士の共同性を強調した。

(5) 対象と制度の位置づけ**①万民就園**

フレーベルは、当初は階級の複線化「すべての身分および境遇の、就学資格を得るまでのすべての年齢の幼児の保育施設」を理想としていたにもかかわらず、実際には、上流・中間階級の幼児を対象とした幼稚園 (Bürgerkindergarten) であった。後半になって (1860年以後)、マーレンホルツ=ビューロウらの幼稚園運動の過程で貧民や労働者の幼児を対象とした民衆幼稚園 (Volkskindergarten) が開設されて、階級の複線化という形で万民就園の実現が可能となった。

②国民教育制度の一環としての幼稚園

フレーベルは幼稚園を単なる幼児の保護施設のレベルや質ではなく「教育」の重要な場として主張したのであり、そのためには幼稚園と本来の純粋な学習学校との連結である媒介学校あるいは予備学校 (Vermittlungs-oder Vorschule) を学校体系の中に位置づける必要があった。1852年の「媒介学校」という論文の中で、彼は、幼稚園は直観的陶冶段階であり、本来の学習学校は抽象的・概念的陶冶の段階であり、この二つを結びつける第3の主要な段階が媒介学校であるという。つまり、事実直観から概念へと移行しつつ、両者を結びつける位置にあるのが、媒介学校あるいは予備学校だと、主張する。だが、フレーベルによれば、この媒介学校 (予備学校) の指導者には1年の養成課程を修了しなければならないが、この養成がなされていなし、この学校の実施も不完全であり、民衆学校の教師の側からさえこの学校の実施はまだきわめて稀であると嘆いている。¹⁵

3. フレーベルの女性幼稚園教師養成構想

この章では、フレーベルが1840年代に構想した幼稚園教師養成の案や、その後フレーベルの意思を継いだ女性たちによって展開されたフレーベル幼稚園運動の過程で考案・実施された幼稚園教師養成課程について時代順に述べる。このことによって、フレーベル主義幼稚園教師養成課程の特徴を解明することができると思う。

(1) 1840年代の養成構想

フレーベルが幼稚園教師養成について著わしている代表的な論文2点を挙げ考察する。

- ①1839年の論文「就学年齢前の子どもたちの陶冶および上述の年齢における教育者ならびに保育者の養成の実施、とくに幼児学校の教員の養成について」¹⁶

この論文の中でフレーベルは、「青年を（やがて女子青年をも）就学年齢までの子どもたちのための保育者および教育者にまで主としてかれらの子どもたちの創造的な活動衝動の注意深い保育に関する教授をつうじて養成」すると主張し、保育者養成施設をブランケンブルクの施設拡張事業として設置した。そして、1年又は2年の教育課程を草案して、入学者には「音楽」「唱歌」「ピアノの若干の知識」「真に子どもたちを愛する宗教心」「道徳的な最善なるものにむかって努力しかつ思慮深くとらえる感覚と品行」が不可欠であるとしている。

- ②1847年の論文「女子児童保育者ならびに女子教育者のための養成案」¹⁷

目的、入学者の年齢、教育程度、教育課程の期間、時間割等について次のとおりである。

- ・目的

「一般的には、誕生から就学能力を完全に獲得するまでの、したがって本来の学校教授の基礎付けまでの — これをふくめて — 子ども保育、発達および教育までの適切な女子青年の養成である」

- ・入学者の年齢

「女子児童指導者および幼稚園保母としての、一般に女子児童教育者として広い職業のための養成にとっては、17歳から20歳にいたるまでの年齢が（この期間に保持されている児童愛と好意、児童との遊戯的作業に対する愛と能力および深刺とした、穏健かつ明朗な世界観に応じて）最適の年齢である。」
「しかし、より年長の人々すらも養成所の入学に対し閉め出されることはない。」

- ・入学者の教育程度

「児童に対する愛、児童との遊びや作業に対する才能や好み、性格の純粹、したがって思慮深さと礼儀正しさのほかに、女性的な、敬虔な、神と合一した心および唱歌能力をともなった歌好きが不可欠」
「よき市民学校および女学校が提供する知識および熟練」

- ・養成課程の期間 「まる26週間が指定される」

- ・時間割 【表1】に示したとおりである。

【表1】

午前7時	朝の礼拝 宗教教育への参加
8-9時	朝食と自由時間
9-10時	人間および子どもの現象や発達過程
10-12時	子どもの活動および発達のための手段習得（子どもとの接し方、話し方、児童唱歌、四肢の陶冶、感覚の陶冶の手段習得）
12-14時	昼食と自主選択活動
14-16時	作業対象と遊戯対象の手段（遊具、恩物）
16-17時	おやつと自由時間
17-18時	幼児・生徒の遊戯的作業への参加
18-19時	手工の習得

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

(2) 1850年代の養成構想

1840年以降の幼稚園運動とフレーベル自身による養成講座を受けて、幼稚園に巣立っていった女性たちが教育活動を展開した園数は約37～40位といわれている。その中には短期間で閉鎖した園も含まれるが、多くの幼稚園教師がフレーベルの幼稚園教師養成講座の修了書を要求し、フレーベル主義の幼稚園が徐々に広がっていったと考えられる。中でもベルリンでは著名な教育学者のW. ディースターヴェーク (Wilhelm Diesterweg) によってペスタロッチ学院 (Pestalozzistifung) が設立され、1851年にはここに最初のフレーベル主義の幼稚園が付設された。同年に幼稚園禁令が出された後も、幼稚園運動は衰えず、保育や福祉にかかわった人たちによって、1859年には「フレーベル幼稚園促進ベルリン女性協会 Berliner Frauen-Verein zur Beförderung Fröbelischer Kindergarten」が結成され、①教育職に向けての女性の啓発、②全階層児童対象の幼稚園設立と保持、③教員養成、④家庭のための保母養成、がその活動目的に掲げられた。その中で1859年から63年にかけての幼稚園教師養成と講座内容は、【表2】のようなテーマと講師であった。¹⁸

【表2】フレーベル幼稚園促進ベルリン女性教会の幼稚園教師養成講座

テ ー マ	講 師
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の本質について ・ ベルリン大学時代のフレーベル、フィヒテの国民思想とフレーベルの教育組織との関係 ・ 外国における幼稚園の広がりについて ・ 国家と幼稚園との関係について ・ 北方神話は特性のための教育手段となり得るか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペシエ ・ パッペンハイム ・ マーレンホルツ=ビューロウ ・ ベントハイム ・ シュバイヘルト

(3) 1860年代の教育課程

①上記のような教育運動の波及によって、ベルリンで最初の女性幼稚園教師養成所 (Institut zur Ausbildung von Kindergärtnerinnen) が開設された。そこでの養成教育はわかる範囲では【表3】のようであった¹⁹。

【表3】1860年の女性幼稚園教師養成所の教育内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 養成期間…………… 1年半 ・ 4週間の講義……………「フレーベルの遊具や作業具の理論と実際」 (イダ=ゼーレまたはクリューガーによる講義) ・ 実習…………… 4週間の受講後に幼稚園で助手として実習を行うことを義務付けた。
--

しかし、この試みはフレーベルの作業具の不備などの理由から長くは存続しなかったと言われている。フレーベルの弟子のペッシェらも講義を担当したが、ベルリンフレーベル運動の主導者マーレンホルツ=ビューロウとの意見が対立したことも一因であった。

③1863年の「家庭および民衆教育協会」の女性幼稚園教師養成所 (Seminar für Kindergärtnerinnen)

これは、先述のようなフレーベル運動の内部分裂や意見の対立からマーレンホルツ=ビューロウが独立して設立した協会であり、ディースターヴェークらもこの協会の養成教育に協力した。この養成内容の主なものは【表4】のとおりであった。

【表4】家庭および民衆教育教会の女性幼稚園教師養成所の教育内容²⁰

『母の歌と愛撫の歌』の学習、 フレーベルの作業具・遊具の指導
 情操や宗教教育、 健康や衛生学、 園庭の文化や自然に関する知識の直観教育方法、
 童謡や童話、運動遊びによる身体訓練など

(4) 1870年代～1880年代の教育課程

①ミュンヘン女性幼稚園教師養成所の教育課程とゴータの養成所の教育課程

1970年代になると各地で女性幼稚園教師養成所ができて養成教育も活発化するが、その代表的なものに、ミュンヘンとゴータがある。養成教育課程は【表5】のようであった²¹。

【表5】ミュンヘンとゴータの養成所での教育課程

ミュンヘンの女性幼稚園教師養成所	ゴータの女性幼稚園教師養成所
(1) 一般的教科 ・ドイツ語教授と書き方教授 ・よい話し方の練習 ・歴史 ・地理 ・理科 (2) 特別教科 ・心理学を含んだ教育学 ・生理学と体育 ・幼稚園教育学と教授方法 ・フレーベル的図画と初等幾何学 ・フレーベル的運動遊びと結びついた唱歌 ・フレーベルの遊びと作業の恩物の熟練と応用に 向かっての指導 ・幼稚園実習または学校実習 ・体操 (適当な身体練習と遊び)	・宗教 ・一般教育学 ・幼稚園の理論と実際 ・フレーベル的手工 ・フレーベル的手工の試験授業とその批評 ・幼稚園の臨時見学 ・ドイツ語とドイツ文学 (フランス語と英語は選択) ・算数、幾何学 ・歴史 ・地理 ・博物 ・唱歌 ・書き方 ・図画 ・遊びと体操

これらを見ると、一般教養的な内容とフレーベル理論と実技を中心とした幼稚園教育学が主流を占めていることが窺える。ちなみに、ここで【表6】のような当時の幼児学校保母養成所の教育内容と比較してみるとその違いが明白である。これはグロースヘパッハの福音派教会のムッターハウス (母の家) での保育者養成のカリキュラムである。当時この施設には18歳から30歳の女性が通い、キリスト教的な意味で子どもへの愛情と才能と歌が要求された。養成期間は1年であった。

【表6】グロースヘパッハの幼児学校保母養成所の教育内容²²

毎朝5時半～6時半	聖書の読みと暗記
朝食と家事後	編物、裁縫、お祈り、賛美歌の歌と読み、聖書の読みと考察、お祈り
日曜日には、	礼拝に出席、
月曜日の午後は、	地理伝道、唱歌、地区牧師の教授、ヴァイオリン演奏の教授
火曜日の午後は、	賛美歌の暗誦、労働の時間、読書、教育理論、ドイツ語、唱歌、遊びの練習
水曜日の午後は、	繕い物、裁縫、物語の朗読
木曜日の午後は、	フレーベルの作業、博物、直観練習、唱歌、遊び、ヴァイオリン練習
金曜日の午後は、	図画、計算、地区牧師の教授、唱歌
土曜日の午後は、	家事、キリスト教雑誌の読み方、賛美歌、説教の読み方、終わりのお祈り、室内体操

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

ここでは、賛美歌や聖書による宗教的教育内容が主流を占め、それに家事や編物などが加わっている。当時のフレーベル主義の作業なども加えていることが興味深い点である。

③スタロッチ・フレーベル・ハウスでの養成教育課程

1878年にペスタロッチ・フレーベル・ハウスがベルリンのシュタインメッツ通りに設立されると同時に、H. S＝ブライマン (Henriette Schrader＝Breyman, 1827－1899) はそこに女性幼稚園教師養成ゼミナール (Kindergärtnerinennseminar) を開いて自分の理想とする保育者養成を手がけた。その授業科目と担当者は【表7】のとおりだった²³。

【表7】ペスタロッチ・フレーベル・ハウスでの養成課程

授 業 科 目	担 当 者
・教育学 (保健の基礎も含む)	・シュラーダー＝ブライマン
・教育学と宗教の歴史	・シュラーダー＝ブライマン
・幼稚園学	・シュラーダー＝ブライマン
・教授法	・シュラーダー＝ブライマン
・幾何学	・ベルトラム
・唱歌	・バオラート・ロスパット
・スケッチと彩色	・エルゼ・フォン・ブッセ
・体操	・フンベルト嬢
・博物学	・トリンカス氏
・国民経済学の基礎、慈善施設訪問	・シュラーダー氏
・フレーベルの作業	・シェッペル嬢
・幼稚園と学級での実習の事前指導	・シェッペル嬢
・婦人の手仕事の指導	・フンベルト嬢
・フレーベル作業の継続	・レビ
・家庭仕事	・クララ・ヒルセコルン
・ドイツ語、数学、文学、歴史などの補修講座	・ゲルトルート・フォン・ブッセ

【表7】からもわかるようにハウスの校長だったシュラーダー＝ブライマン自身が唱歌と幾何学を除いた多くの科目を担当している。彼女がめざしたものは教育学やフレーベル作業の習得にとどまらないで家事や家庭の経済的仕事までも同時に行えるような資質を備えた女性教師（「精神的母性」概念に基づく²⁴）の養成を実践しようとした。このハウスでの養成は、卒業時に試験制度を導入した点では本格的な女性幼稚園教師養成をめざしたと言える。1890年にはこのゼミナールに16歳から18歳までの約50名の生徒が通ったという。その後、ハウスでは教育課程が改定されて、1883年には、上記科目のほかに、「ボール」、「運動遊戯」、「子どもの沐浴」が加わり、家庭的な作業の中には、「調理」や「子どもの世話」という学習内容が増設された。

③1882年のライプツィヒ養成場の教育課程

H. ゴールドシュミット (Henriette Goldschmidt, 1825－1920) が指導していたライプツィヒの女性幼稚園教師養成場では、フレーベル主義の教育理論に根ざした教育課程として【表8】のような教科目を挙げている。フレーベルの感化を受けたゴールドシュミットは女性の職業に向けて準備するような学校や学習コースを実現するために1872年にライプツィヒに幼稚園教師養成所を創設したが²⁵、【表

8】は1882年の記録である。

【表8】H. ゴールドシュミットによるライプツィヒ養成場の教育課程²⁶

<p><必修科目>・空間－形態理論・郷土科・博物学・理学・人類学・健康理論・教育理論 <フレーベル方式の科目>・体操・唱歌・図工・音調活動・多種の技術的な型作りの作業 <その他の科目>・文化史・手仕事の歴史・民衆文学(寓話、童話、民話)・叙事詩・共同社会</p>

このような教育課程でゴールドシュミットによれば<フレーベル方式の科目>はその上の<必修科目>と結びつくものであり、「文化史的な考察様式は、“技術(手仕事の歴史)”から“芸術史”へとつなげ、“民話”から“叙事詩”や“ドラマ”へと発展させ、生活の発展的要素は“共同社会”の中で扱う」と言う。数学や博物学や人類学は“心理学”の準備となるものであり、これらが関連しあって教育学や教育理論へと拡大していくものである。知識は技能と結びつき、そのため教育術は練習を必要とする²⁷、と述べている。

(5) 1900年代初頭の教育課程

ドイツ・フレーベル連合(Deutsche Fröbel-Verband)は各地(ブレスラウ、カールスルーエ、ライプツィヒ、ミュンヘンなど)で養成ゼミナールを開催するが、ここでは1093年のカッセルにおいて実施された連合の標準教育課程を【表9】に挙げておく。カッセルのコメニウスハウスの指導者は、J. メッケ(Johanna Mecke, 1857～1926)である。

【表9】メッケの指導によるカッセルの養成ゼミナールの教育課程²⁸

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・宗教(宗教の歴史、子どもの宗教教育)〈2セメスター、週1時間〉 ・倫理学〈1セメスター、週1時間〉 ・教育学の歴史(コメニウス、ペスタロッチ、フレーベル、ローマ・イスラエルの教育等)〈3セメスター、週1時間〉 ・教育学講義(コメニウスの母親学校、大教授学、ペスタロッチのリーンハルトとゲルトルト、ルソーのエミール、ディースターヴェークの指針、フレーベルの人間教育など)〈2セメスター、週1時間〉 ・教育心理学(課題と意義、感情生活、知的生活)〈2セメスター、週1時間〉 ・心理学講義〈3セメスター、週1時間〉 ・教育理論(一般教育理論、フレーベル教育理論、倫理・宗教教育)〈3セメスター、週1時間〉 ・恩物と作業の方法(子どもの遊び、運動遊び、手遊び、歌、体操の方法)〈2セメスター、週1時間〉 ・幼稚園学(歴史、幼稚園の庭、動植物の世話等)〈1セメスター、週1時間〉 ・作業の実践(型抜き、縫い物、編み物等)〈2セメスター、週1時間〉 ・手作業の授業(形作りや紙細工)〈1セメスター、週1時間〉 ・数学(算術、幾何学)〈2セメスター、週1時間〉 ・自然科学の授業(動物学〈1セメスター、週1時間〉、植物学〈1セメスター、週1時間〉、物理学と化学〈2セメスター、週1時間〉、人類学〈1セメスター、週1時間〉) ・保健学〈1セメスター、週1時間〉 ・救急コース〈1セメスター、週1時間〉 ・ドイツ語(文学、児童文学)〈2セメスター、週1時間〉 ・芸術史(人間の住居、風習等)〈2セメスター、週1時間〉 ・生活保護(貧困、女性の課題、現代女性の仕事場等)〈2セメスター、週1時間〉 ・初歩授業の方法(教材、指導案の作成、見学実習)〈2セメスター、週1時間〉 ・図画(フレーベルの図画、曲線等) ・体操(方法、整体外科的体操、運動遊び、ダンス等)〈3セメスター〉 ・唱歌(動的・メロディ的・リズム的練習、子どもの歌練習、独唱と二部合唱等)〈3セメスター、週1時間〉 ・実践的養成〈週10時間〉 |
|--|

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

上記の教育課程からは、宗教学や倫理学、自然科学、数学などの一般教養科目、教育学や心理学の科目、さらに恩物や作業の方法といったフレーベル方式の指導法や幼稚園学、加えて図画や唱歌、体操といった実技科目が広範に編成されていることがわかる。

(6) 1911年のプロイセン大臣規程による教育課程

プロイセン政府は「高等女学校の再編に関する施行規則」(1908年)に基づく「女性幼稚園教師と女性青少年指導員養成規程」を1911年に公布し、幼稚園教師養成課程の国家基準を定めた。この規程の中で、幼稚園教師養成に関しては、①目的を、家庭と小規模幼稚園の教師として従事するための資格を付与すること、②養成課程は1年間、ただし「国に認可された女子青年学校に最低1年間就学し、幼稚園の授業、並びに教育学、宗教、ドイツ語と、衛生学、保育および公民科などの諸教科の授業に出席し、優秀な成績を修めた志願者が入学を許可される。③実質的には、高等女学校卒業後2年間の専門教育を受ける、④年間授業数は40週、1週あたりの授業数は32時間、とされている²⁹。

そしてその教育課程は、【表10】のように、理論教科、技術的教科、実践的活動の3領域から構成され、全体的には技術的教科と実践的活動が多いことが特徴的である。

【表10】1911年の幼稚園教師養成コースのための諸規程による教育課程³⁰

A. 理論科目

- ・教育理論〈週3時間〉……………実際観察に基づいた子どもの心身の発達についての話し合い、子どもの理解力や判断の理解、感情や性格の宗教的・倫理的基礎などの学習。
- ・幼稚園理論〈週2時間〉……………まだ就学義務に達していない子どもの教育にとっての幼稚園の本質と意義、家庭にとっての幼稚園の意義などの学習。
- ・自然学および文化学〈週2時間〉……(a) 動植物や鉱物、家畜の生活習慣。森や田や畑などの知識の学習、
(b) 日常生活における自然現象、
(c) 農業や手工、商売など人間の生産的な活動の基礎学習。

B. 技術的科目

- ・運動遊びと体操〈週2時間〉……………子どもの自由な喜びに満ちた活動手段としての運動遊びの練習。女性徒自身の体操技能の維持と向上の練習。
- ・作業教授〈週5時間〉……………子どもの年齢にあった一連の作業の入門的でとわかりやすい研究。
- ・裁縫〈週2時間〉……………繕い物やつぎ当て。
- ・型どり、裁断、図画〈週3時間〉……子どもの日常的な環境にある自然や芸術的な物の立体的・平面的・線的再現。
- ・唱歌と音楽〈週2時間〉……………子どもの年齢に相応しい歌の選択。ピアノ、バイオリン、マンドリンの演奏。

C. 実践的活動

- ・幼稚園での活動〈週9時間〉……………熟練した教師のもとで助手として子どもの遊びや作業の手伝い。様々な年齢クラスで母親的世話や指導や作業を行う。
- ・家事と庭仕事〈週2時間〉……………市民世帯で毎日、習慣で、長期的に繰り返していることの学習。子どもの畑、室内植物、家畜、小鳥などの世話。

- D. 論文……………上記の理論的科目および幼稚園での活動について最低2回の筆記試験を含む小論文が課せられる。

上記の教育課程によって、子ども観察や「子どもの身体的強制をしない快活な活動のための手段としての運動遊びの実施と自由な表現」や「子どもの年齢に合わせた教育的作業、特に遊具の製作」「表現能力の強化、創造的活動への喜びの覚醒、形に対する感覚と色彩感覚および美的鑑賞力の発達が配慮されなければならない」などが重視されていて、全体としてフレーベル主義の強い教育課程になっていると推測できる。

まとめ

以上、本稿の前半では、19世紀中ごろにドイツで設立された幼児学校や託児所の社会的役割やその性格、そしてそこでの子どもたちの世話や指導をする人たちの養成の特徴を述べた。後半では、フレーベルの幼稚園設立に絡んで幼稚園教師養成の教育課程の変遷を概観した。そのことを通じてフレーベル主義の幼稚園教師養成団体が、めざした女性幼稚園教師の力量や資質はどのようなものであったかをうかがい知ることはできる。それは、幼稚園教師を志した女性たちの社会的地位の向上と意識の改革と結びついていて、その他の託児所や幼児学校の指導者（つまり、「保母 Kinderpflegerin」や「幼児学校教師 Kleinkinderlehrerin」または、「子守り女 Schwester」）とは異質な、専門教育的知識と技量を備えた「教師」としての人材を育成することを志向したのではないだろうか。特に、ドイツでは幼稚園は学校教育制度の系列に位置づけられるという目標をはじめから掲げていただけに、児童福祉的性格の強い「保母」とは異なる、専門的資質と資格を必要とする教育活動を主軸とした幼稚園教師養成の教育内容が、カリキュラム（教育課程）の次元でも年代を追って、実現されてきたことが実証できた。この点、教育学や心理学、幼稚園学、フレーベル方式の技術的学習内容が支柱となってきたことがその裏付けとなっている。

最後に、プロイセン政府では、1911年8月に「幼稚園教師と少年指導員の国家試験規則 Prüfungsordnungen für die Abschlussprüfungen an der Frauenschulen angegliederten Kursen zur Ausbildung von Kindergärtnerinnen und Jugendleiterinnen」が公布されて、幼稚園教師養成の制度化が一応完結する³¹。

フレーベル主義幼稚園教師養成カリキュラムの検討

註

- 1 代表的研究としては、岩崎次男「フレーベルの幼稚園の成立と幼稚園教育者の教育」、酒井玲子「19世紀後半のベルリンにおけるフレーベル運動と保育者養成」、大崎功雄「20世紀プロイセン・ドイツにおける保育者養成制度の形成過程 — 1911年の『幼稚園養成規程』と『卒業試験規則』の成立（この3点は岩崎次男編『幼児保育制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、1995年所収）がある。
- 2 Vgl., M. Kreckler, Die Anfänge seiner gesellschaftlichen Vorshulerziehung für die Kinder der arbeitenden Klassen in Deutschland, Jahrbuch für Erziehungs- und Schulgeschichte, Jahrgang 516, Berlin, S. 53.
- 3 J. Wirth, Über Kleinkinderbewahr-Anstalten, Augusburg, 1838, SXXI.
- 4 梅根悟編著『世界幼児教育体系21 幼児教育史』講談社、1974年193～194ページ参照。
- 5 Wirth, Über Kleinkinderbewahr-Anstalten, SIV, f. 5.
- 6 M. Kreckler, A. a. O., op. cit., S. 72.
- 7 T. Fliedner, Lieder-Buch für Kleinkinderschulen, Kaiserswerth, 1842, S. 177.
- 8 Vgl., T. Fliedner, A. a. O., op. cit. S. 248～252.
- 9 J. Fölsing, Geist der Kleinkindererziehung. Darmstadt, 1846, S. 25.
- 10 J. Fölsing, Blüten und Früchte der Kleinkinder Schulen nach hundertjahrigem Bestehen. Forst, 1880, S. 14～15.
- 11 梅根悟監修、前掲書、223ページの訳より引用。
- 12 岩崎次男訳『幼児教育者論』明治図書、1972年、178～183ページ。
- 13 岩崎次男論文「フレーベルのKindergartenの成立過程の研究」（奈良学芸大学紀要、1972年、引用）
- 14 岩崎訳、前掲書、109～110ページより引用。
- 15 フレーベル「媒介学校 — かれの—女子学徒にあてたフリードリッヒ・フレーベルの書簡 — 1852年5月25日」（岩崎次男、同上書、62～89ページ、参照）。
- 16 岩崎次男訳、同上書、180、183ページ参照。
- 17 岩崎次男訳、同上書、184～192ページ参照。
- 18 岩崎次男著『幼稚園保育制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、1995年、146ページを参照に作成。
- 19 同上箇所参照。
- 20 Vgl. J. Voß, A. a. O., S. 79.
- 21 Vgl. M. Kreckler, Quellen zur Geschichte der Vorshulerziehung, Berlin, 1971, S. 187～188.
- 22 Vgl. Ebenda, S. 185～187.
- 23 Schrader=Breymann: Beiträge zur Geschichte des Pestalozzi-Fröbel-Hauses.
in: Vereins-Zeitung des Pestalozzi-Fröbel-Hauses in Berlin, 1896, S. 11-13.
- 24 筆者は日本教育学会第64大会（2005年8月、東京学芸大学）で「ドイツ幼稚園教師職の確立過程における『精神的母性』」というテーマで研究発表し、幼稚園教師職と精神的母性概念の検討を行った。
- 25 Vgl. Kemp, A: »Henriette Goldschmidt. Ihr Leben und ihr Schaffen, Volkserziehung«, in Verein Frauen in der Geschichte e, V. Leipzig (Hrsg.): Frauen in der Geschichte, Leipzig 1993.

高田短期大学紀要第26号

- 26 Henriette Goldschmidt, Ideen der weiblichen Erziehung im Zusammenhang mit dem System Friedrich Fröbels. 6Vorträge. Leipzig, 1882. Zit., Günter Erning u. a. (Hrsg.), Geschichte des Kindergartens Bd II, S. 70.
- 27 Ebenda.
- 28 Vgl., Lehrplan eines Kindergärtnerinnenn Seminars. In: Kindergarten, 1903, Heft1. S. 62~67.
- 29 Vgl. Kindergarten, 1911, Nr. 2, S. 94~95.
- 30 Vgl. Kindergarten, 1911, Nr. 4. S. 95~100.
- 31 大崎功雄「20世紀初頭プロイセン・ドイツにおける保育者養成制度の形成過程 — 1911年の『幼稚園教師養成規程』と『卒業規則』の成立」(岩崎次男編『幼児保育者制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、1995年所収) 参照。

本稿は、日本乳幼児教育学会第16回大会(2006年11月)にて研究発表した内容に基づくものである。